



親切について考える

人に親切にすることはよいことだと、誰もが分かっていますが、どうして親切にすることがよいことなのか、学校では道徳科の授業で学びを深めています。子どもは、「大人から褒められる」からという理由で親切にすることがあります。果たしてそれは、本当の親切と言えるのでしょうか？ 親切にすることで、心が温かくなり、晴れやかな気持ちになります。また、親切にされたほうも嬉しくなります。人の喜びを自分の喜びのように受け止められ、温かい気持ちになれるから、親切はよいことと言えるのだと思います。

親切にすることはどうしてよいことなのか、この機会にお家で話題にしていだければと思います。

○「特別の教科 道徳」の様子

1年1組での『はしのうえのおおかみ(親切・思いやり)』の授業の様子

※本時の学習は以下の視点で進めました。

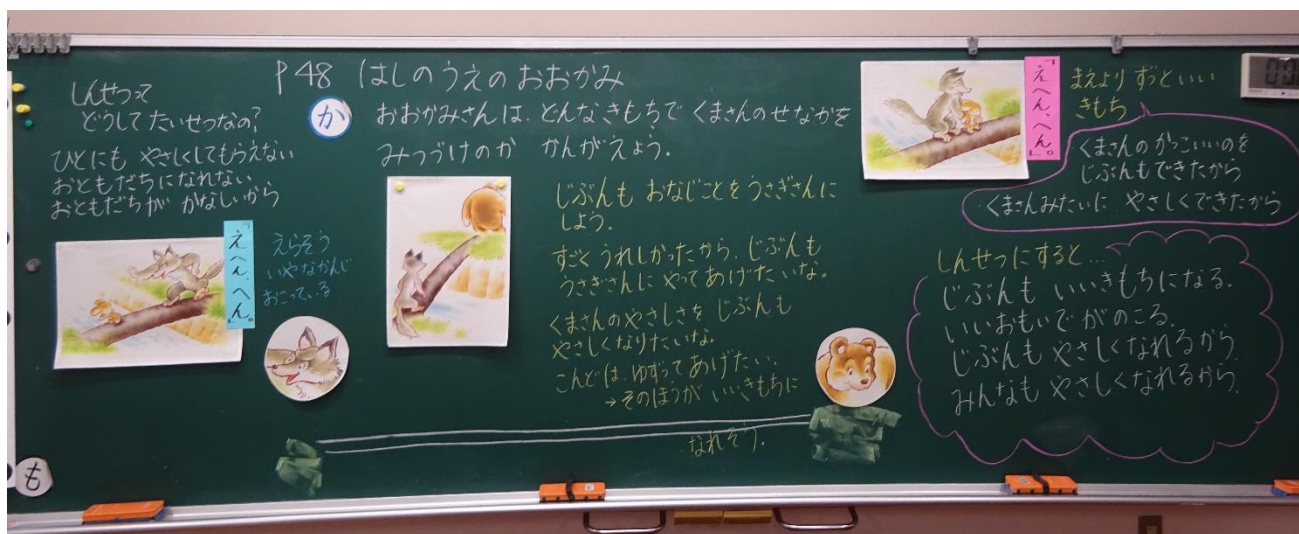
- ・くまに親切にされたおおかみの気持ちの変容に気づくという視点。
- ・意地悪したときよりも、親切にしたほうが気持ちがいいということに気づく視点。

親切・思いやりの目標

低学年・・・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

中学年・・・相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

高学年・・・誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。



〈児童の考え〉

親切にすると...

自分もいい気持ちになる。いい思い出がのこる。
自分もやさしくなれる。みんなもやさしくなれる。

なかよし2組での『どんな気持ちか考えよう』の授業の様子

なかよし学級の道徳の時間は、児童の課題に合わせて題材を選び、授業を行っています。今回は、SST(ソーシャルスキルトレーニング)の内容を取り入れた授業をご紹介します。

